

令和 6 年能登半島地震における災害ボランティアセンター派遣活動報告会兼協働型災害ボランティアセンター運営研修における災害ボランティア活動(炊き出し)報告(令和6年11月19日)

NPO法人よりきど暮らしの会 代表 月橋 章 氏

法人概要：2016 年設立登記

主な活動：介護予防健康体操教室、買物支援、子ども食堂、子どもささえ愛クラブ 他

催し実績：ウォークラリー、ベトナムフェア、ドジョウクラブ収穫祭

法人理念：地域の助け愛の輪を重ねて超高齢化社会で地域に暮しの安心と豊かさを実感
大事にするのは、共感・自主性・出会い 頑張りすぎないで自然体で取り組む
こと

支援活動：法人として炊き出し支援活動は初 穴水町にて 2024 年 3 月 4 日～5 日



【活動報告】

大泉町の、NPO 法人よりきど暮らしの会、月橋と申します。

私たちが 3 月 5 日に行った穴水町での炊き出しボランティアの報告を行います。

まず自己紹介ですね。よりきど暮らしの会は、2016 年設立です。もとは、介護予防健康体操教室が母体です。そこを出発点に買い物支援事業を開始したり、2018 年には子供食堂を始めました。そのあとは、地域の活性化として、イベントや事業を行ってきました。変わったところでは、2022 年、群馬県 NPO 協議会の補助金をもらい、准認定ファンドレイザーの資格取得活動も行いました。2023 年もファンドレイザー 2 名を養成しました。ファンドレイザー 3 名ということで資金繰りが随分たったかもしれません。

ファンドレイザー受講のときに、組織のフレームワークを確認しました。

NPO法人には設立趣旨書がありますが、ミッション、ビジョン、バリューという形で自分たちの活動を整理しました。

ミッション、地域の助け合いを重ねる。ビジョン、安心して豊かなよりきど暮らしを実現する。バリュー、そんなことに共感するか、大切にするか、共感ですとか自主性。それから、出会い、それと頑張りすぎないこと、そういう確認をしました。

2023年度の事業ですが、体操教室は、年間26回実施し552人が参加。買い物支援は、参加134人でした。子供食堂は定例で12回実施。合計1090人が参加しました。県社協の支援もいただき、春夏冬の休みの食糧支援・生活支援の援助も13回ほど実施しました。

その他、2023年の事業として、どうじょうクラブの収穫祭、ジャコウアゲハの調査保護活動、コミュニティ農園を子供食堂と連携して始めています。2023年度の最後になります。3月5日には能登の穴水町で、上州名物「おっきりこみ」の炊き出しボランティアを行ってきました。

事業規模は、2016年、我々はシニアのおじさんとおばさんを中心にスタートしているので、事業規模は小さいもので始めました。コロナ禍の2020年～2022年、子供食堂関係が多かったですが、県の生活こども部からも支援を受け、コロナ禍にある子どもの育成支援を行い、事業規模が増えました。2023年は少し戻りました。

次、穴水町で行った、おっきりこみの炊き出しボランティアについて、動画を見てください。……動画視聴……

今の動画の内容を説明します。こうした感じで3月4日の1時に出発。6日の1時に帰着しました。後片付けが終わったのが12時になりました。メンバーは7人でした。(行けない人が出ることも想定し)補欠の方を3名用意しました。

また、たくさんの方に協力してもらいました。大泉町役場、大泉町社協。社会福祉法人・同仁会、これは車、10人乗りのハイエースを調達してもらいました。それから、JA邑楽館林、ハナマルキ、星野物産。それから自治会の方と、いろんな方の想いで実施することができました。

実施にかかる総費用ですが、ボランティアの炊き出しなので、高速道路料金はタダでした。燃料は結構高かったです。食材は多くの企業から寄付をいただき食材費は少額でした。ガスや消耗品、調理用品も、普段使っている調理用品プラスアルファで、屋外で調理をしなければいけないので出費がありました。あとは我々の食費と宿泊代があり、出費として16万円ほどになりました。

炊き出し支援を行うことにしたきっかけは、私たちのNPOの会員の中に7名も東日本震災のときに陸前高田で炊き出し支援を行った方が含まれていることによります。能登の元日の地震(被害)を見て、衝撃を受け、誰しもが力になりたいと想いました。東日本震災のときの経験、子供食堂として私どもができることを考えました。大量調理ができる器具があります。配膳と衛生管理も、ある程度の経験や知識があります。それで提案できました。

あと、NPO法人よりきど暮らしの会に、食料とか、支援いただいている周りの方がおり、1月の時点で「行こう」ということになっておりました。

(現地の) 災害ボランティアセンターの方でボランティアの炊き出しの募集が1月時点では無かったので見守っている状態でした。

会員の1人が石川県の災害ボランティアセンターに、200食のおっきりこみで(炊き出しを)やりたいと提案。1月23日にすぐ返事が来ましたが、調整中だということでした。調整できたら連絡する場合もあると話をしていただきました。

これを受け、NPO法人の理事会で準備をしようとなり、早速、10人乗りのハイエースの借入を申し入れました。

そうこうしている内に、2月の初め、穴水町から炊き出しボランティア要請がネット上に上がり、2月8日に応募しました。3月2日または3月3日に200食程度できますと伝えました。翌日、炊き出しボランティアの担当の方、名古屋の藤田医科大学から支援に出向いている方から電話が来ました。「炊き出しは3月5日に250食で。避難所と周りの住宅に住んでる方をお願いします」という話を受け、了解し、準備しました。

我々の炊き出しは、最初、日にちと食数が決まってるだけで、あとは何も決まってませんでした。水すら無い、電気・ガスもない。食糧はもちろんだということからのスタートで、実現のために創意工夫し準備を行いました。

早速、関連の大泉町、社協、自治会、いろんなところに協力してくれと話しました。計画書を作り、2月21日に計画会議を行い、参加者と役割を決定し、25日に事前の炊き出し訓練を行いました。

穴水町に行った理由は、一番早くに炊き出しの要請が出たからです。災害ボランティアセンターの立ち上げが他のところより早かったのかなと思います。ですので、社協の皆さんの活躍によるボランティアセンターの早い立ち上げが大切になるのじゃないかなと思います。事前訓練の日は25日でした。いろいろチェックする項目がありました。

3月4日出発する直前まで、火力が安定して出せず、何回もガスとガス台を変え、なるべく早く調理できる方法を検討しました。自治会にあった強力なバーナーと釜が役に立ちました。

炊き出しだけでは心が繋がらないかなと、寄せ書きづくりを行いました。皆さん協力してくれました。役場、社協、他の企業、いろんなところで書いてもらいました。

炊き出しの前日、朝から下準備を始めました。

準備を終えて荷物を積むと、車内では、水やガスを跨いで席に座るといふ具合になり、持ってるものを全部埋め込んだようになりました。

(出発する際には) 町長以下、送り出してもらいましたが、全ての荷物を積載する経験をしてなかったので、積んで人を乗せると、タイヤが半分凹んでしまい青くなりました。車屋さんに行って、何とか、高速道を乗り切ったという状況でした。やってみないとわからないものです。

能登の穴水町に行くのに、氷見市という富山県の一番北側の町に泊まりました。

宿で120リットル、ポリタンク6つの水を積みました。一路、穴水を目指しました。通常は1時間と少しで行くところを2時間かかって、この避難所である交流館プラウトに着きました。

あとは、調理ですが、炊き出しおっきりこみの他、コーヒーとクッキーを持参して、何とか避難者に、レギュラーコーヒーを飲ませたい思いがあり、最初にお湯を沸かしてコーヒーを振る舞いました。調理は順調でした。3つのガス台を並べフル回転させ、おっきりこみを作りました。避難所では、世話をする方は感染防止用の格好をしていて、中に運んでいきました。避難所の周りの自宅で在宅の方は並んで受け取りましたが、連携というか、争いもあって、ちょっと問題だなと思いました。おっきりこみは美味しく作れました。

撤収の準備をし、3時になったら、避難所の館長が町長を紹介してくださり、寄せ書きを持参し皆で役場に赴きました。町長に会ってもらい私たちが本当に良かったと思っています。



所感ですが、今回の炊き出しでは、東日本震災で炊き出しを経験したNPOの会員の方の思いが、チームの活動を牽引しました。子供食堂に6年取り組み、いろんな方の協力を得て、我々自身も経験や機材を充実させていたことが役に立ちました。協力体制という面では、子供食堂事業の成果の1つだったと言えます。

寄せ書きを渡すこともでき、穴水高校から、椎茸の差し入れもいただき、心の交流ができました。あと、筋書きが全く無いので、事前の演習や試行が、炊き出しに大変役立ちました。

実際にその炊き出しを行うことで、NPOとして大きな自信ができました。今度、何かあったときにも行けるなという自信ができました。

今回の炊き出しの後で、災害福祉支援センター、或いはその事業を知りましたが、この機

会に活動助成団体登録もさせていただきました。さらに、今回の炊き出しでは、大半の支援も受けさせていただきました。

ボランティアの食事を除いて支援の対象になってますので、皆さんが行く場合もハードルが低いのかなと思います。



炊き出しは屋外での調理です。天気が良かったので事なきを得ましたが、風が吹いた、雨が降った、雪が降ったとなると、被災者支援に向いても何もできずに帰ることになる危険もあるなということも感じました。屋外であっても、ちょっとした雨風が防げる場所を、(被災地で)社協でも自治体でも、準備できたらより円滑に行くのかなと思いました。

大泉町でもトイレカーを支援していますが、各避難所に炊き出しキッチンカーのようなスペースを支援してあげれば、ボランティアも活動しやすいかなと、その場で思いました。

子ども食堂を営んでいると、(関連する)経験を持っているので、こうした災害時に活躍できる団体なんだと再認識しました。

以上で、報告を終わります。

●後日談●

上記の炊出しキッチントレーラーを用意することを大泉町長と全国子ども食堂支援センターに要請しました。トイレトレーラ同様に各自治体で持てば災害支援がより安心にできると思います。

